

(3)

日常の惰性的な生活のなかで閉ざされた私たちの心を、旅は開かれた、予感にみちたものにする。しかし、それは、旅に出かけるとき、旅立ちに際してだけのことでなくて、およそ旅をしているかぎり、いつでもいえることである。これは誰でも経験していることだけれど、旅先で見たものや聞いたものは、しばしば私たちに新鮮なおどろきを与え、旅先で出会った出来事はしばしば私たちにつよい感動を与える。旅に出るひとは誰でも〈芸術家〉になり〈詩人〉になるといわれるのも、そのことを指している。

55 「そのこと」とあるが、それはどういうことか。

- 1 人は旅に出ることによって、詩人にも芸術家にもなり得ることができるということ
- 2 旅に出ると、普段の日常とは異なる驚きや、感動に出会うことがあるということ
- 3 閉ざされた日常の中では、旅に出た時のような感動に出会うことができないということ
- 4 退屈な日常の中で、人は旅に出かけると必ず新鮮な驚きに出会うということ

(4)

生物の時間はエネルギー消費量で変わるのですが、生物はエネルギー消費量をみずから変えることにより、積極的に時間を操作しているのだと私は考えています。ヤマネ（山鼠）は冬眠します。同じサイズの冬眠しないものと比べると、ヤマネはずっと長生きですが、冬眠中にはエネルギーをわずかししか使わないので時間がゆっくりになり、その分、寿命も延びるのでしょう。だから長生きしたけりやずっと冬眠してればいい、とはならないでしょう。冬眠するのは、時間を止めて、冬という暮らしにくい季節を、やり過ごすためです。長生きしたいからではありません。

56 「ヤマネ（山鼠）は冬眠します」とありますが、それはなぜですか。

- 1 長生きして、他の動物との生存競争に勝つ抜くため
- 2 限られたエネルギーを上手く活用して、寿命をのばすため
- 3 エネルギーの消費を減らし、厳しい季節を乗り越えるため
- 4 自身の時間をコントロールして、暮らしやすい季節で生きるため